

# つくば市国際化基本指針の見直しについて

平成28年3月30日（水）

10:00～11:30

国際都市つくばを考える懇話会

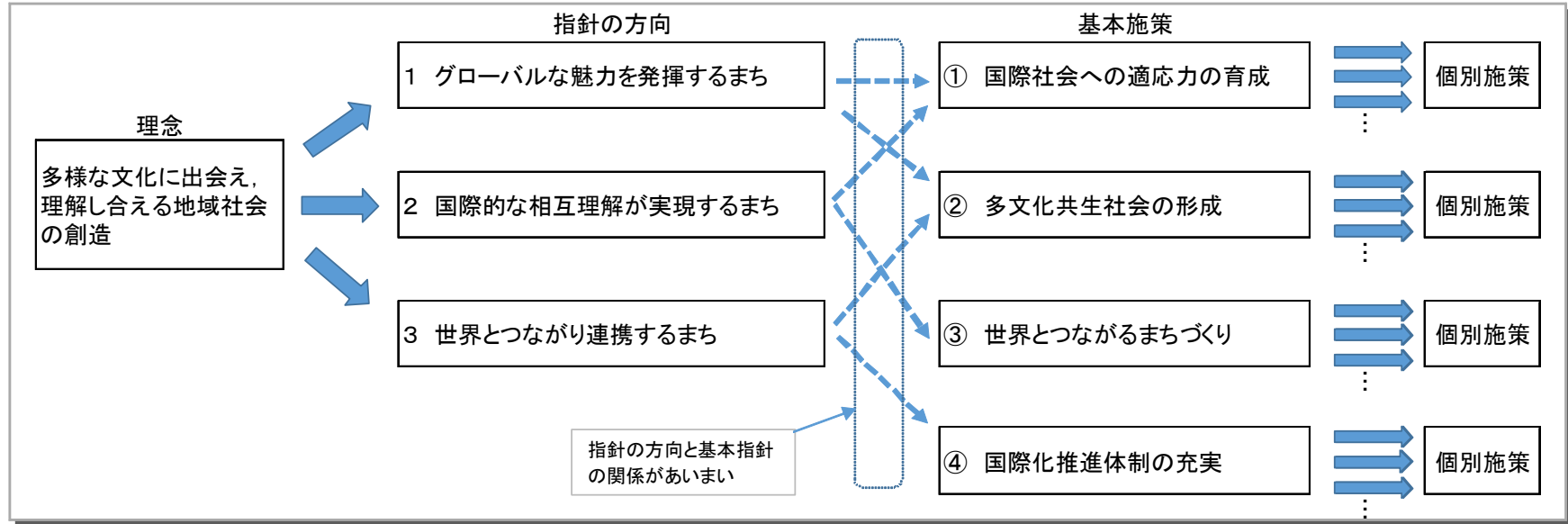
第2回会議 資料

目次	ページ
1 新基本指針の体系及び見直しの方向性について・・・	1
新基本指針の体系（案）・・・・・・・・・・・・・・・・	3
基本指針の体系見直し案新旧対照表（P.4～）	
2 新基本指針（案）・・・・・・・・・・・・・・・・	6
基本指針見直し案新旧対照表（P.15～）	

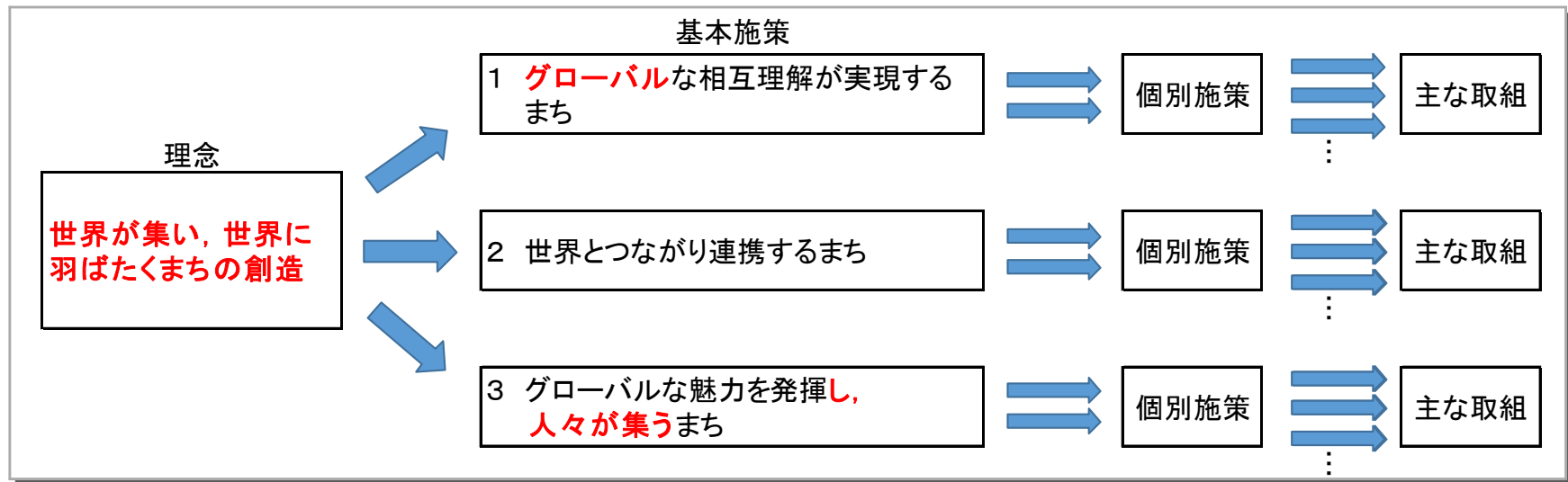
## 1 新基本指針の体系及び見直しの方向性について

- ① 現行（旧）指針では、「方向」と「基本施策」の関係があいまいだったが、新指針では、「つくば市未来構想」及び「つくば市戦略プラン」と同様の体系とし、理念、基本施策及び個別施策を関連付けて、それぞれの個別施策に具体的な取組を示した。
- ② 理念を、つくば市未来構想の方向性に鑑み、「世界が集い、世界に羽ばたくまちの創造」とした。
- ③ 理念を実現するための3つの基本施策を、市内における外国人の支援や市民の国際感覚の醸成といった身近なものから、視野を広げ、世界との連携へと広がる方向となるよう順序を入れ替えた。
- ④ 第1回会議における「国際化」「グローバル化」の使い分けについて、委員の意見等を参考に、適宜、「国際化」を「グローバル化」に改めることにした。
- ⑤ 旧指針における個別施策に相当する取組は、すべて新指針に取り込みながら、市民意識調査の結果や市を取り巻くグローバル化の情勢等に対応すべく、新たに取り組むべき取組を追加した。

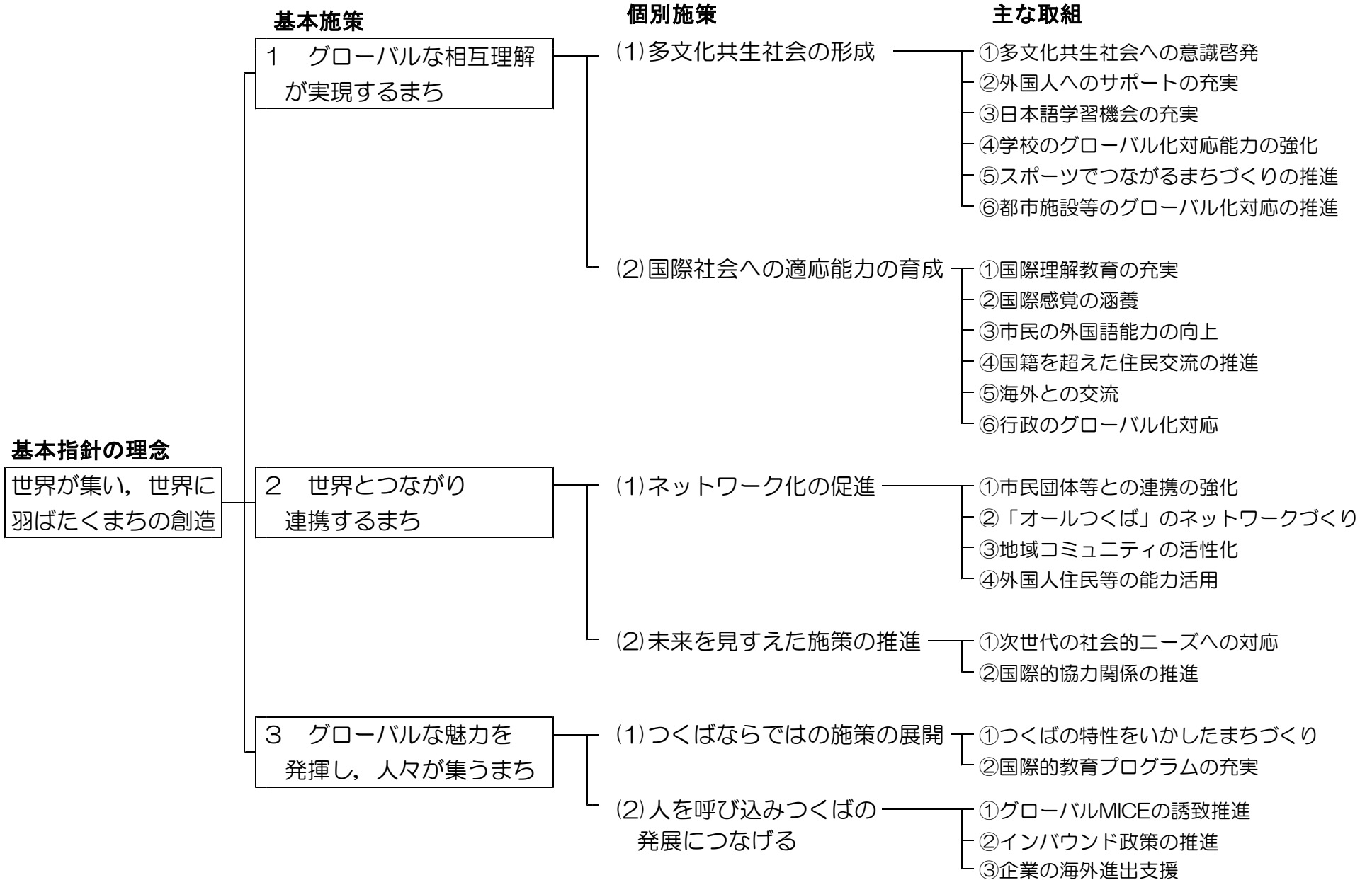
《現行（旧）指針の体系イメージ図》



《新指針の体系イメージ図》



# 新基本指針の体系(案)



つくば市国際化基本指針の体系見直し案 新旧対照表

(新)	(旧)
<p><u>I 国際化基本指針策定の趣旨</u></p> <p><u>II つくば市のグローバル化を取り巻く現状と課題</u></p> <p><u>1 つくば市の状況</u></p> <p><u>2 グローバル化に向けた課題</u></p> <p><u>III グローバル化基本指針の理念</u></p> <p>「<u>世界が集い、世界に羽ばたくまちの創造</u>」</p> <p><u>IV 基本施策</u></p> <p><u>1 グローバルな相互理解が実現するまち</u></p> <p><u>2 世界とつながり連携するまち</u></p> <p><u>3 グローバルな魅力を発揮し、人々が集うまち</u></p> <p><u>V 基本施策ごとの個別施策と主な取組</u></p> <p><u>1 グローバルな相互理解が実現するまち</u></p> <p><u>(1)多文化共生社会の形成</u></p> <p>①多文化共生社会への意識啓発</p> <p>②外国人へのサポートの充実</p> <p>③日本語学習機会の充実</p> <p>④学校のグローバル化対応能力の強化</p> <p><u>⑤スポーツでつながるまちづくりの推進</u></p> <p>⑥都市施設等のグローバル化対応の推進</p> <p><u>(2)国際社会への適応能力の育成</u></p> <p>①国際理解教育の充実</p> <p>②国際感覚の涵養</p> <p>③市民の外国語能力の向上</p>	<p><u>1 国際化基本指針策定の趣旨</u></p> <p><u>2 つくば市の国際化を取り巻く現状と課題</u></p> <p>◆つくば市の状況</p> <p>◆国際化の課題</p> <p><u>3 国際化基本指針の理念</u></p> <p>「<u>多様な文化に出会い、理解し合える地域社会の創造</u>」</p> <p><u>4 国際化基本指針の方向</u></p> <p><u>(1)グローバルな魅力を発揮するまち</u></p> <p><u>(2)国際的な相互理解が実現するまち</u></p> <p><u>(3)世界とつながり連携するまち</u></p> <p><u>5 基本施策</u></p> <p>(1)国際社会への適応能力の育成</p> <p>①国際理解教育の充実</p> <p>②国際感覚の涵養</p> <p>③海外との交流</p> <p>④市民の外国語能力の向上</p> <p>(2)多文化共生社会の形成</p> <p>①日本語学習機会の充実</p> <p>②外国人へのサポートの充実</p> <p>③多文化共生への意識啓発</p> <p>④国籍を超えた住民交流の推進</p> <p>⑤都市施設等の国際化対応の推進</p> <p>⑥学校の国際化対応能力の強化</p>

④国籍を超えた住民交流の推進

⑤海外との交流

⑥行政のグローバル化対応

## 2 世界とつながり連携するまち

### (1)ネットワーク化の促進

①市民団体等との連携の強化

②「オールつくば」のネットワークづくり

③地域コミュニティの活性化

④外国人住民等の能力活用

### (2)未来を見すえた施策の推進

①次世代の社会的ニーズへの対応

②国際的協力関係の推進

## 3 グローバルな魅力を発揮し、人々が集うまち

### (1)つくばならではの施策の展開

①つくばの特性をいかしたまちづくり

②国際的教育プログラムの充実

### (2)人を呼び込みつくばの発展につなげる

①グローバルMICEの誘致推進

②インバウンド政策の推進

③企業の海外進出支援

(3)世界とつながるまちづくり

①つくばの特性をいかしたまちづくり

②次世代の社会的ニーズへの対応

③国際的協力関係の推進

④インターナショナルスクール等の充実

⑤外国人住民等の能力活用

⑥地域コミュニティの活性化

(4)国際化推進体制の充実

①「オールつくば」のネットワークづくり

②市民団体等との連携の強化

③行政の国際化対応

## 2 新基本指針（案）

### I 国際化基本指針策定の趣旨

つくば市は、32の国の教育・研究機関が集積し、民間研究所や関連産業を合わせると約300にも及ぶ世界的な研究開発拠点であり、約2万人もの国内外からの研究者が、最先端の研究に取り組んでいます。その一方で、古くから「西の富士、東の筑波」と称され、人々に親しまれてきた筑波山を有するなど、歴史と先端科学が共存する都市です。

つくば市には、研究・開発のために海外から来た研究者や留学生を始めとして、8千人近くの外国人が居住しています。また、日本人住民の中には海外生活経験者が多く、つくば市は多様な文化を包含している都市ともいえます。

このような中、つくば市は、「住んでみたい 住み続けたい まち つくば」を未来の都市像として、国内外の多くの人が集い、活力にあふれ、今後も成長を続けていく、そのようなまちづくりを進めるべく、新たに「つくば市未来構想」を策定しました。

その構想の理念の一つ「人を育み、みんなで支えあうまち」を実現するための個別施策として、「国際化の推進」は位置づけられており、世界に開かれた「国際都市つくば」にふさわしい、国籍、言語等のちがいにとらわれない、すべての市民が安心して生活できる多文化共生のまちづくりが、目標として掲げられています。

つくば市は、東京から鉄道で45分、成田国際空港からは車で50分の距離にあり、科学技術都市としての知名度とその立地の良さから多くの国際会議が開催される中、平成28年5月には「G7茨城・つくば科学技術大臣会合」が開催されました。

今後は、グローバル化を目指した取組のみならず、筑波研究学園都市がこれまで培ってきた科学・技術研究等のポテンシャルをさらに高め、「世界のつくば」として、世界に貢献する取組が、これまで以上に求められます。

つくば市としては、今後のグローバル化の進展やライフスタイルの多様化などを視野に入れながら、市内の研究・教育機関、民間企業、市民等との連携をさらに深め、「多文化共生社会」の形成、「科学技術の国際戦略拠点」の構築を支援する施策を積極的に推進していく必要があります。

本指針は、平成23年度から平成27年度までを目途として策定された従前の指針を時勢に合わせて見直し、平成28年度から平成32年度までの今後5年間、つくば市戦略プラン等との整合性を図りながら、つくば市が取り組む

べきグローバル化施策のガイドラインとして策定するものです。

## II つくば市のグローバル化を取り巻く現状と課題

### 1 つくば市の状況

つくば市には、平成27年（2015年）10月1日現在、7,853人の外国人が住民登録しており、国籍は129か国に及びます。このように多くの外国人が在住しているのは、大学や研究機関等がそれぞれ受け入れ体制の充実に努めてきた結果であり、一方で、日本人住民の中には海外生活経験者が多く、在住外国人支援などのボランティア活動をしている団体が多いことも、つくば市の特徴の一つです。

近年のつくば市のグローバル化に関連のある主なトピックスとしては、次のようなものが挙げられます。

- (1) 平成25年11月に、筑波研究学園都市の閣議了解50周年を迎え、その集積の結実の一つとして、フランスの科学技術都市グルノーブル市と姉妹都市締結をしました。
- (2) 平成27年6月に、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)と東関東自動車道の接続により、つくばー成田国際空港間の交通アクセスがさらに向上し、海外との往来の利便性が向上しました。
- (3) 平成27年10月には、つくば市とグルノーブル市の研究機関が中心となって、世界有数の科学技術都市による国際会議「ハイレベルフォーラム」がつくば市で開催されました。  
そして、平成28年5月には、主要7か国及び1地域の大臣により、「G7茨城・つくば科学技術大臣会合」が開催されました。
- (4) 領土問題や従軍慰安婦問題により日中韓の交流を休止していた時期がありましたが、その後、政府レベルで徐々に関係改善の兆しが見えてきたことから、友好都市である中国深圳市とは平成26年度から交流を再開し、交流協力意向書を締結している韓国大田市とも、平成28年度以降徐々に交流を再開する方向です。

この2市とは、今後、特に経済活動を主とした交流が想定され、海外からの投資の呼び込みとともに、市内ベンチャー企業の海外進出への足掛かりにつなげることも期待できます。

- (5) 平成26年6月に、つくばインターナショナルスクールが、国際バカロレア中等教育課程（MYP）の認定を受けました。

今後、平成29年度には、つくばインターナショナルスクール及び茗溪学園高等学校が国際バカロレア高等教育課程（DP）の認定を受



ける見込みであり、また筑波大学においては、すでに国際バカロレアDP取得者の受け入れを開始しています。これらにより、小学校から大学まで国際的なレベルの高い教育が市内で修了できることとなります。

これは他市では類を見ない事例であり、関係機関の連携による支援と国内外へのPRを一層図る必要があります。

これらのトピックスの中でも、特に今後のつくば市のグローバル化に大きな変化をもたらしたものは、大きな国際会議の開催でしょう。これにより、つくば市が、世界有数の国際科学技術都市として、改めて世界に認知されることとなりました。

今後は、これまで以上に、外国人支援や多文化共生社会実現のための各種取組を推進していくことはもとより、グローバルMICE誘致のさらなる推進、そして国内外からの様々な投資の呼び込みにつなげるだけでなく、インバウンドを呼び込む施策や、市内のベンチャー企業等の海外進出を後押しする施策を展開する必要があります。

## 2 グローバル化に向けた課題

つくば市のグローバル化施策については、市民意識調査結果等から、案内板や市が発信する情報のさらなる多言語化が求められていることが伺えます。

つくば市が今後、より一層グローバル化を推進していくためには、これらの指摘事項の改善に取り組むとともに、これまで進めてきた施策をさらに発展させ、グローバルな視点から、「多文化共生社会」の形成、世界的な「科学技術の国際戦略拠点」の構築を目指して、市内の研究・教育機関、民間企業、市民団体等と密接な連携・協力関係を強化していくことが必要です。

そして、つくば市未来構想が描く未来像「住んでみたい 住み続けたいまち」を現実のものとするため、人材の呼び込みや、国内外からの様々な投資に直接的・間接的につながる施策の展開も求められています。

## Ⅲ グローバル化基本指針の理念

「世界が集い、世界に羽ばたくまちの創造」

つくば市は、「世界が集い、世界に羽ばたくまちの創造」を理念に掲げ、「国際的な相互理解が実現するまち」、「世界とつながり連携するまち」「グロー

バルな魅力を発揮し、人々が集うまち」を目指し、さまざまなグローバル化施策を総合的・計画的に推進していきます。

つくば市には世界各国から多くの人々が来ており、科学・技術研究をはじめとして多様な活動をしています。これからは、こうした多様な文化を背景とする人々に出会い、互いに認め合い、理解を深められる地域社会を創造することが重要です。

それには、日本人にとっても外国人にとっても快適で魅力あるまちを創造すること、住民すべてが国籍や文化の違いを越えて融合し、だれもがグローバル化のメリットを実感し享受できる環境をつくる必要があります。

このような「国際都市つくば」の特性とそれをいかした取組が、「多文化共生社会」の形成や「科学技術の国際戦略拠点」の構築につながっていきます。

#### IV 基本施策

##### 1 グローバルな相互理解が実現するまち

地域社会においてもグローバル化が進展する中、私たちは自国の文化や歴史に誇りを持つとともに、他国の文化や歴史に対しても理解を深め、それを受け入れていく必要があります。

日本人と外国人の双方が歩み寄ることにより互いに理解し合い、外国人が地域社会に溶け込めるよう、多文化共生社会の形成を目指していきます。

##### 2 世界とつながり連携するまち

海外との交流を含めて、「科学技術の国際戦略拠点」を形成するため、関係機関や市民・団体等との幅広い連携を図っていきます。

また、つくば市内には、海外での経験が豊かな市民や、国際的な活動を行っている団体も多いことから、これらの市民や団体がそれぞれの主体性を発揮して、多様な活動を行えるよう支援していきます。

##### 3 グローバルな魅力を発揮し、人々が集うまち

つくば市には、約300にも及ぶ研究・教育機関が集積・立地し、多数の外国人研究者や留学生が居住しています。このような特性をいかし、つくばが世界に誇れる「科学・技術・研究」、「教育」、「環境」などを世界に発信し、「住んでみたい 住み続けたい まち」つくばの実現を目指します。

## V 基本施策ごとの個別施策と主な取組

### 1 国際的な相互理解が実現するまち

#### (1)多文化共生社会の形成

##### ①多文化共生社会への意識啓発

地域社会において、国籍、民族、文化の違いを問わず、すべての市民がお互いの違いを認め合うことが重要なことから、パンフレットの配布や交流イベントなどを通して、市民の意識啓発を図っていきます。

また、外国人住民が日本で暮らす上で、社会のルールや習慣などを知っておくことも非常に有意義なことから、その啓発に努めていきます。

##### ②外国人へのサポートの充実

市としては、外国人住民のための生活便利帳（英語版・中国語版）、市域の概要がわかるマップ（英語版・中国語版）等を、その他の多言語化された市の情報とともに窓口で配布し、外国人住民が安心して生活ができるようサービスの向上に努めていきます。

また、市役所窓口における通訳サービスの拡充や、市が発信する多言語版ホームページの内容をより充実させるとともに、情報の発信においては、SNS(ソーシャル・ネットワークキング・サービス)などを積極的に活用して、外国人住民に有益な情報の提供に努めます。

さらには、一般財団法人つくば市国際交流協会等で行われている外国人に対応した相談窓口については、利便性を考慮して相談日の見直し等を図っていきます。

なお、日常生活において欠かすことのできない医療・福祉分野において、あるいは災害発生の非常時などにおいて、日本語が十分にできない場合でも安心できるよう、関係機関と連携・協力を図っていきます。

##### ③日本語学習機会の充実

外国人が日本で支障なく生活できるよう、一般財団法人つくば市国際交流協会やボランティア団体が日本語講座を開催しています。今後は、外国人のニーズに答えられるよう、それらの機関・団体等が連携し、できるだけ多くの外国人が受講できるよう振り分けるなどして、日本語学習機会の拡充に努めていきます。

##### ④学校のグローバル化対応能力の強化

外国人児童・生徒や保護者等との意思疎通が円滑に行われるよう、ボランティア等を活用して、学校におけるグローバル化対応能力を強

化していきます。

#### ⑤スポーツでつながるまちづくりの推進

「スポーツでつながるまち」を目指すつくば市として、言葉が通じなくても交流ができるスポーツイベントの開催は、国際交流の進展に大変有効です。

新たなスポーツイベントを企画するだけでなく、既存のイベントを外国人も参加しやすくするなどして、各種イベントへの外国人参加率を上げる取組が必要です。

また、姉妹都市、友好都市とのスポーツ交流や、オリンピックホスト国として海外都市の選手を招致して青少年と交流するなど、国際感覚の涵養とともに次世代に感動を与える事業を推進します。

#### ⑥都市施設等のグローバル化対応の推進

公共施設、交通機関、道路等の案内板に外国語又はローマ字ルビを併記するなど、外国人にとっても住みやすい都市環境の整備を推進していきます。

### (2)国際社会への適応能力の育成

#### ①国際理解教育の充実

学校教育において、家庭、地域に住む外国人、地域の大学・研究機関等との連携を深め、国際感覚や、国際社会の中で主体的に行動したり発信したりすることのできる能力を育む国際理解教育を充実していきます。

#### ②国際感覚の涵養

市民が国際感覚を養い、世界への視野を広げ、国際社会の一員として異文化を理解し受け入れられるよう、様々な行事や事業への参加などを促進していきます。

#### ③市民の外国語能力の向上

外国人とのコミュニケーションが円滑に行えるよう、BiViつくばや地域交流センターなどを活用し、日本人と外国人とが交流する機会を創出して、市民の外国語能力の向上を図っていきます。

#### ④国籍を超えた住民交流の推進

誰もが自由に参加できるイベントとして、国際色豊かな「国際交流フェア」を毎年開催しています。今後は、市内各所で開催されている国際交流イベントの主催者相互が情報を共有し、さらに多くの住民が参加できるよう工夫を重ね、つくばの特性をいかした住民交流を推進していきます。

## ⑤海外との交流

つくば市には現在、米国に3つ、仏国に1つの姉妹都市、中国に1つの友好都市があり、韓国にも友好的交流を継続している都市が1つあります。

これまで以上に、市民相互の交流機会を増やし、異文化理解を促進するとともに、科学技術振興に資する都市間交流など、つくば市の特性をいかした事業の展開を図っていきます。

## ⑥行政のグローバル化対応

グローバル化に向けた施策を実現していくため、職員自らが豊かな国際感覚とグローバルな視点を持って対応できるよう、充実した研修を行うとともに、組織体制の整備に努めていきます。

## 2 世界とつながり連携するまち

### (1)ネットワーク化の促進

#### ①市民団体等との連携の強化

市内には、筑波研究学園都市の草創期から活動している民間国際交流団体や、一般財団法人つくば市国際交流協会など多数の団体が活動しています。今後、これらの団体との連携をより一層強化し、市民の幅広い支援のもとグローバル化施策を推進していきます。

#### ②「オールつくば」のネットワークづくり

「国際都市つくば」として、だれにも快適な都市環境、すべての人にとって住みやすい生活環境を整備するには、茨城県などの関係機関や市内の大学・研究機関などとの連携・協働を活発に行うことが必要となります。

そのためには、「オールつくば」でのネットワークづくりを進めるとともに、このネットワークを通じて、グローバル化の推進に取り組んでいきます。

#### ③地域コミュニティの活性化

地域のコミュニティにおいてもグローバル化は必要で、外国人住民との接点を持ち、つながりを持つことが重要です。外国人が地域コミュニティに参加しやすい環境の整備や、外国人の参加意識の高揚を図っていきます。

#### ④外国人住民等の能力活用

外国人住民、留学生、海外経験者等の多様な能力をいかすため、新たにキャリア登録制度の設置を検討していきます。その登録者がセミ

ナーやイベントを開催するなど、多様な能力をいかし、相互にグローバルな知見を広げられるよう図っていきます。

## (2) 未来を見すえた施策の推進

### ① 次世代の社会的ニーズへの対応

次世代に向けた社会的ニーズとしては、高齢化社会に対応した医療や生活環境の向上，地球温暖化への対応として低炭素社会の実現などが求められています。

つくば市には、ロボットテクノロジーや実験低炭素タウン等の社会的実証実験フィールドとして優れた機能があり，これらを社会的ニーズへの対応に活用するため，国内のみならずグローバルに産官学の連携を強化していきます。

### ② 国際的協力関係の推進

地球環境，資源・エネルギー等の国際的な課題に対して，国際社会の一員として国際的な協働が求められている中，市内の研究機関・大学等が先進的に取り組んでいる分野について，世界各都市の研究機関等との連携・協力を推進していきます。

## 3 グローバルな魅力を発揮し，人々が集うまち

### (1) つくばならではの施策の展開

#### ① つくばの特性をいかしたまちづくり

筑波研究学園都市の機能強化を目指し、「環境フェスティバル」，「科学フェスティバル」や「教育日本一」など，つくばの付加価値を高めるブランディングを戦略的に進めるとともに，「産業フェア」などにおいて姉妹都市等からの企業の出展を促すなどして，人や企業の投資を呼び込み，国内外から人々が集うまちづくりを推進していきます。

#### ② 国際的教育プログラムの充実

つくば市に集う外国人研究者等の中には，家族で滞在する人も多数いることから，その子どもたちが外国語で教育を受けられる学校の支援や，国際バカロレア（IB）等教育環境の充実に向けて，関係機関と連携を図っていきます。

さらには，「教育日本一」とともに，充実したつくばの国際化教育を世界に発信していきます。

### (2) 人を呼び込みつくばの発展につなげる

#### ① グローバルMICEの誘致推進

つくば地域における国際会議の誘致実績は，全国でもトップレベルに

ありますが、G7茨城・つくば科学技術大臣会合開催にかかる支援やおもてなしの経験をいかし、さらなるグローバルMICEの誘致を推進することで、国内外からの人材や企業の投資を促進します。

## ②インバウンド政策の推進

日本を訪れる外国人旅行者が2千万人を越えようとしている中、茨城空港における中国主要都市との直行便の就航等とも相まって、市内においても、外国人旅行者は確実に増加しています。

商業施設内における案内板の多言語化だけでなく、指差し案内板等を用いた外国語対応など、インバウンドを積極的に呼び込む施策を、さらに推進していきます。

## ③企業の海外進出支援

「国際科学技術都市つくば」のネームバリューをいかし、中国ハイテクフェアなど各国で開催されるビジネスフェアにおいて、市内のベンチャー企業等の出展を支援し、海外進出への足掛かりを創出していきます。

つくば市国際化基本指針見直し案 新旧対照表

(新)	(旧)
<p><u>I 国際化基本指針策定の趣旨</u></p> <p><u>つくば市は、32の国の教育・研究機関が集積し、民間研究所や関連産業を合わせると約300にも及び世界的な研究開発拠点であり、約2万人もの国内外からの研究者が、最先端の研究に取り組んでいます。その一方で、古くから「西の富士、東の筑波」と称され、人々に親しまれてきた筑波山を有するなど、歴史と先端科学が共存する都市です。</u></p> <p><u>つくば市には、研究・開発のために海外から来た研究者や留学生を始めとして、8千人近くの外国人が居住しています。また、日本人住民の中には海外生活経験者が多く、つくば市は多様な文化を包含している都市ともいえます。</u></p> <p><u>このような中、つくば市は、「住んでみたい 住み続けたい まち つくば」を未来の都市像として、国内外の多くの人が集い、活力にあふれ、今後も成長を続けていく、そのようなまちづくりを進めるべく、新たに「つくば市未来構想」を策定しました。</u></p> <p><u>その構想の理念の一つ「人を育み、みんなで支えあうまち」を実現するための個別施策として、「国際化の推進」は位置づけられており、世界に開かれた「国際都市つくば」にふさわしい、国籍、言語等のちがいにとらわれない、すべての市民が安心して生活できる多文化共生のまちづくりが、目標として掲げられています。</u></p> <p><u>つくば市は、東京から鉄道で45分、成田国際空港からは車で50分の距離にあり、科学技術都市としての知名度とその立地の良</u></p>	<p><u>1 国際化基本指針策定の趣旨</u></p> <p><u>つくば市には、筑波大学などの国の研究・教育機関に加え、民間研究所や関連産業など300 以上が立地しており、</u></p> <p><u>海外から来た研究者や留学生を始めとして、8千人近くの外国人が居住しています。また、日本人住民の中には海外生活経験者が多く、つくば市は多様な文化を包含している都市です。</u></p> <p><u>このようなことから、つくば市では、第3次総合計画後期基本計画のなかで、一人ひとりの住民が異文化を理解する姿勢を持ち、国籍を問わず地域社会の一員として暮らせる「多文化共生社会」の形成を、国際化施策の大きな目標としています。</u></p> <p><u>平成17年には「つくばエクスプレス」が開通し、つくば市と首都東京が最短45分で結ばれるようになりました。現在、グロ</u></p>



さから多くの国際会議が開催される中、平成28年5月には「G7茨城・つくば科学技術大臣会合」が開催されました。

今後は、グローバル化を目指した取組のみならず、筑波研究学園都市がこれまで培ってきた科学・技術研究等のポテンシャルをさらに高め、「世界のつくば」として、世界に貢献する取組が、これまで以上に求められます。

つくば市としては、今後のグローバル化の進展やライフスタイルの多様化などを視野に入れながら、市内の研究・教育機関、民間企業、市民等との連携をさらに深め、「多文化共生社会」の形成、「科学技術の国際戦略拠点」の構築を支援する施策を積極的に推進していく必要があります。

本指針は、平成23年度から平成27年度までを目途として策定された従前の指針を時勢に合わせて見直し、平成28年度から平成32年度までの今後5年間、つくば市戦略プラン等との整合性を図りながら、つくば市が取り組むべきグローバル化施策のガイドラインとして策定するものです。

## II つくば市のグローバル化を取り巻く現状と課題

### 1 つくば市の状況

つくば市には、平成27年（2015年）10月1日現在、7,853人の外国人が住民登録しており、国籍は129か国に及びます。

ーバル化の進展などによって、

筑波研究学園都市がこれまで培ってきた科学・技術研究等のポテンシャルをさらに高め、「世界のつくば」として、世界に貢献する発展が求められています。

つくば市としては、今後のグローバル化の進展やライフスタイルの多様化などを視野に入れながら、市内の研究・教育機関、民間企業、市民等との連携をさらに深め、「多文化共生社会」の形成、「科学技術の国際戦略拠点」の構築を支援する施策を積極的に推進していく必要があります。

本指針は、平成23年度から平成27年度まで

の今後5年間、つくば市総合計画等との整合性を図りながら、つくば市が取り組むべき国際化施策のガイドラインとして策定するものです。

## 2 つくば市の国際化を取り巻く現状と課題

### ◆つくば市の状況

つくば市には、平成22年（2010年）12月31日現在、7,862人の外国人が登録されており、国籍は124カ国に及びます。中でも、「研究」を在留資格としている外国人が約600人、「留学」が約2,000人、「家族滞在」が約1,300人で、合計すると約3,900人となり、全登録者数のほぼ半数にあたります。研究・学術関係の外国人の比率が極めて高いことがつくば市の特徴であり、国

このように多くの外国人が在住しているのは、大学や研究機関等がそれぞれ受け入れ体制の充実に努めてきた結果であり、一方で、日本人住民の中には海外生活経験者が多く、在住外国人支援などのボランティア活動をしている団体が多いことも、つくば市の特徴の一つです。

近年のつくば市のグローバル化に関連のある主なトピックスとしては、次のようなものが挙げられます。

(1) 平成25年11月に、筑波研究学園都市の閣議了解50周年を迎え、その集積の結実の一つとして、フランスの科学技術都市グルノーブル市と姉妹都市締結をしました。

(2) 平成27年6月に、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)と東関東自動車道の接続により、つくばー成田国際空港間の交通アクセスがさらに向上し、海外との往来の利便性が向上しました。

(3) 平成27年10月には、つくば市とグルノーブル市の研究機関が中心となって、世界有数の科学技術都市による国際会議「ハイレベルフォーラム」がつくば市で開催されました。

そして、平成28年5月には、主要7か国及び1地域の大臣により、「G7茨城・つくば科学技術大臣会合」が開催されました。

(4) 領土問題や従軍慰安婦問題により日中韓の交流を休止していた時期がありましたが、その後、政府レベルで徐々に関係改善の兆しが見えてきたことから、友好都市である中国深圳市と

内の市町村の中では際立っています。

このように多くの外国人が在住しているのは、大学や研究機関等がそれぞれ受け入れ体制の充実に努めてきた結果であり、また \_\_\_\_\_日本人住民の中には海外生活経験者が多く、在住外国人支援などのボランティア活動をしている団体が多いことも、つくば市の特徴の一つです。

は平成26年度から交流を再開し、交流協力意向書を締結している韓国大田市とも、平成28年度以降徐々に交流を再開する方向です。

この2市とは、今後、特に経済活動を主とした交流が想定され、海外からの投資の呼び込みとともに、市内ベンチャー企業の海外進出への足掛かりにつなげることも期待できます。

(5) 平成26年6月に、つくばインターナショナルスクールが、国際バカロレア中等教育課程（MYP）の認定を受けました。

今後、平成29年度には、つくばインターナショナルスクール及び茗溪学園高等学校が国際バカロレア高等教育課程（DP）の認定を受ける見込みであり、また筑波大学においては、すでに国際バカロレアDP取得者の受け入れを開始しています。これらにより、小学校から大学まで国際的なレベルの高い教育が市内で修了できることとなります。

これは他市では類を見ない事例であり、関係機関の連携による支援と国内外へのPRを一層図る必要があります。

これらのトピックスの中でも、特に今後のつくば市のグローバル化に大きな変化をもたらしたものは、大きな国際会議の開催でしょう。これにより、つくば市が、世界有数の国際科学技術都市として、改めて世界に認知されることとなりました。

今後は、これまで以上に、外国人支援や多文化共生社会実現のための各種取組を推進していくことはもとより、グローバルMICE誘致のさらなる推進、そして国内外からの様々な投資の呼び込みにつなげるだけでなく、インバウンドを呼び込む施策や、市内

のベンチャー企業等の海外進出を後押しする施策を展開する必要があります。

## 2 グローバル化に向けた課題

つくば市のグローバル化施策については、市民意識調査結果等から、案内板や市が発信する情報のさらなる多言語化が求められていることが伺えます。

つくば市が今後、より一層 グローバル化を推進していくためには、これらの指摘事項の改善に取り組むとともに、これまで進めてきた施策をさらに発展させ、グローバルな視点から、「多文化共生社会」の形成、世界的な「科学技術の国際戦略拠点」の構築を目指して、市内の研究・教育機関、民間企業、市民団体等と密接な連携・協力関係を強化していくことが必要です。

そして、つくば市未来構想が描く未来像「住んでみたい 住み続けたい まち」を現実のものとするため、人材の呼び込みや、国内外からの様々な投資に直接的・間接的につながる施策の展開も求められています。

## Ⅲ グローバル化基本指針の理念

「世界が集い、世界に羽ばたくまちの創造」

つくば市は、「世界が集い、世界に羽ばたくまち」の創造」を理念に掲げ、「国際的な相互理解が実現するまち」、「世

## ・国際化の課題

科学・技術研究の目的は、その進歩自体ではなく、私たちの生活や文化の質を高めること、人類の将来や幸福の増進に寄与することなどにあります。科学・技術研究は、グローバルな価値や世界的なニーズ・成果などが問われる分野でもあり、つくば市は「科学・技術研究の拠点」である筑波研究学園都市を擁することから、世界的な貢献を期待されている都市と言えます。

つくば市が今後、より一層の国際化に取り組んでいくには、これまで進めてきた施策をさらに発展させるとともに、グローバルな視点から、「多文化共生社会」の形成、世界的な「科学技術の国際戦略拠点」の構築を目指して、市内の研究・教育機関、民間企業、市民団体等と密接な連携・協力関係を強化していくことが必要です。

## 3 国際化基本指針の理念

「多様な文化に出会い、理解し合える地域社会の創造」

つくば市は、「多様な文化に出会い、理解し合える地域社会の創造」を理念に掲げ、「グローバルな魅力を発揮す

界とつながり連携するまち」, 「グローバルな魅力を発揮し, 人々が集うまち」を目指し, さまざまなグローバル化施策を総合的に計画的に推進していきます。

つくば市には世界各国から多くの人々が来ており, 科学・技術研究をはじめとして多様な活動をしています。これからは, こうした多様な文化を背景とする人々に出会い, 互いに認め合い, 理解を深められる地域社会を創造することが重要です。

それには, 日本人にとっても外国人にとっても快適で魅力あるまちを創造すること, 住民すべてが国籍や文化の違いを越えて融合し, だれもがグローバル化のメリットを実感し享受できる環境をつくる必要があります。

このような「国際都市つくば」の特性とそれをいかした取組が, 「多文化共生社会」の形成や「科学技術の国際戦略拠点」の構築につながっていきます。

#### IV 基本施策

##### 1 グローバルな相互理解が実現するまち

地域社会においてもグローバル化が進展する中, 私たちは自国の文化や歴史に誇りを持つとともに, 他国の文化や歴史に対しても理解を深め, それを受け入れていく必要があります。

日本人と外国人の双方が歩み寄ることにより互いに理解し合い, 外国人が地域社会に溶け込めるよう, 多文化共生社会の形成を目指していきます。

##### 2 世界とつながり連携するまち

るまち」, 「国際的な相互理解が実現するまち」, 「世界とつながり連携するまち」を目指し, さまざまな国際化施策を総合的に計画的に推進していきます。

つくば市には世界各国から多くの人々が来ており, 科学・技術研究をはじめとして多様な活動をしています。これからは, こうした多様な文化を背景とする人々に出会い, 互いに認め合い, 理解を深められる地域社会を創造することが重要です。

それには, 日本人にとっても外国人にとっても快適で魅力あるまちを創造すること, 住民すべてが国籍や文化の違いを越えて融合し, だれもが国際化のメリットを実感し享受できる環境をつくる必要があります。

このような「国際都市つくば」の特性とそれをいかした取組が, 「多文化共生社会」の形成や「科学技術の国際戦略拠点」の構築につながっていきます。

#### 4 国際化基本指針の方向

##### (1) グローバルな魅力を発揮するまち

つくば市には, 300 を超える研究・教育機関が集積・立地し, 多数の外国人研究者や留学生が居住しています。このような特性をいかし, つくばが世界に誇れる「科学・技術研究」, 「教育」, 「環境」などを, まちの魅力として, これらが成長できるための国際化を推進していきます。

##### (2) 国際的な相互理解が実現するまち

地域社会においてもグローバル化が進展する中, 私たちは自



海外との交流を含めて、「科学技術の国際戦略拠点」を形成するため、関係機関や市民・団体等との幅広い連携を図っていきます。

また、つくば市内には、海外での経験が豊かな市民や、国際的な活動を行っている団体も多いことから、これらの市民や団体がそれぞれの主体性を発揮して、多様な活動を行えるよう支援していきます。

### 3 グローバルな魅力を発揮し、人々が集うまち

つくば市には、約300にも及び研究・教育機関が集積・立地し、多数の外国人研究者や留学生が居住しています。このような特性をいかし、つくばが世界に誇れる「科学・技術・研究」、「教育」、「環境」などを世界に発信し、「住んでみたい 住み続けたいまち」つくばの実現を目指します。

## V 基本施策ごとの個別施策と主な取組

### 1 国際的な相互理解が実現するまち

#### (1)多文化共生社会の形成

##### ①多文化共生社会への意識啓発

地域社会において、国籍、民族、文化の違いを問わず、すべての市民がお互いの違いを認め合うことが重要なことから、パンフレットの配布や交流イベントなどを通して、市民の意識啓発を図っていきます。

国の文化や歴史に誇りを持つとともに、他国の文化や歴史に対しても理解を深め、それを受け入れていくことが必要です。

日本人と外国人の双方が歩み寄ることにより互いに理解し合い、外国人が地域社会に溶け込めるよう、多文化共生社会の形成を目指していきます。

#### (3) 世界とつながり連携するまち

海外との交流を含めて、「科学技術の国際戦略拠点」を形成するため、関係機関や市民・団体等との幅広い連携を図っていきます。

また、つくば市内には、海外での経験が豊かな市民や、国際的な活動を行っている団体も多いことから、これらの市民や団体がそれぞれの主体性を発揮して、多様な活動を行えるよう支援していきます。

## 5 国際化のための基本施策

### ~~(1) 国際社会への適応力の育成~~

### ~~(2) 多文化共生社会の形成~~

### ~~(3) 世界とつながるまちづくり~~

### ~~(4) 国際化推進体制の充実~~

#### ③多文化共生社会への意識啓発

地域社会において、国籍、民族、文化の違いを問わず、すべての市民がお互いの違いを認め合うことが重要ですので、パンフレットの配布や交流イベントなどを通して、市民の意識啓発を図っていきます。

※これ以降は、各取組内容の新旧変更点がわかるよう、対応する旧取組を、新取組に合わせて単純に並べ替えています。

新取組において、赤文字は文言の訂正、青文字は追加の取組を示しています。

また、外国人住民が日本で暮らす上で、社会のルールや習慣などを知っておくことも非常に有意義なことから、その啓発に努めていきます。

## ②外国人へのサポートの充実

市としては、外国人住民のための生活便利帳（英語版・中国語版）、市域の概要がわかるマップ（英語版・中国語版）等を\_\_\_\_、その他の多言語化された市の情報とともに\_\_\_\_窓口で配布し、外国人住民が安心して生活ができるようサービスの向上に努めていきます。

また、市役所窓口における通訳サービスの拡充や、市が発信する多言語版ホームページの内容をより充実させるとともに、情報の発信においては、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)などを積極的に活用して、外国人住民に有益な情報の提供に努めます。

さらには、一般財団法人つくば市国際交流協会等で行われている外国人に対応した相談窓口については、利便性を考慮して相談日の見直し等を図っていきます。

なお、日常生活において欠かすことのできない医療・福祉分野において、あるいは災害発生の非常時などにおいて、日本語が十分にできない場合でも安心できるよう、関係機関と連携・協力を図っていきます。

## ③日本語学習機会の充実

外国人が日本で支障なく生活できるよう、一般財団法人つくば市国際交流協会や\_\_\_\_ボランティア団体が日本語講座

また、外国人住民が日本で暮らす上で、社会のルールや習慣などを知っておくことも非常に有意義なことから、その啓発に努めていきます。

## ②外国人へのサポートの充実

\_\_\_\_外国人住民のための生活便利帳（英語版・中国語版）、市域の概要がわかるマップ（英語版・中国語版）等を作成し、より多くの外国人住民の利便性の向上を図っていきます。これらの冊子等は、市役所の窓口等で配布し、\_\_\_\_安心して生活ができるようサービスの向上に努めていきます。

また、日常生活において欠かすことのできない医療・福祉分野において、あるいは災害発生の非常時などにおいて、日本語が十分にできない場合でも安心できるよう、関係機関と連携・協力を図っていきます。

## ③日本語学習機会の充実

外国人が日本で支障なく生活できるよう、財団法人つくば都市振興財団\_\_\_\_や多くのボランティア団体が日本語講座

を開催しています。今後は、外国人のニーズに応えられるよう、それらの機関・団体等が連携し、できるだけ多くの外国人が受講できるよう振り分けるなどして、日本語学習機会の拡充に努めていきます。

④学校のグローバル化対応能力の強化

外国人児童・生徒や保護者等との意思疎通が円滑に行われるよう、ボランティア等を活用して、学校におけるグローバル化対応能力を強化していきます。

⑤スポーツでつながるまちづくりの推進

「スポーツでつながるまち」を目指すつくば市として、言葉が通じなくても交流ができるスポーツイベントの開催は、国際交流の進展に大変有効です。

新たなスポーツイベントを企画するだけでなく、既存のイベントを外国人も参加しやすくするなどして、各種イベントへの外国人参加率を上げる取組が必要です。

また、姉妹都市、友好都市とのスポーツ交流や、オリンピックホスト国として海外都市の選手を招致して青少年と交流するなど、国際感覚の涵養とともに次世代に感動を与える事業を推進します。

⑥都市施設等のグローバル化対応の推進

公共施設、交通機関、道路等の案内板に外国語又はローマ字ルビを併記するなど、外国人にとっても住みやすい都市環境の整備を推進していきます。

(2)国際社会への適応能力の育成

①国際理解教育の充実

を開催しています。今後とも、外国人のニーズに合った  
日本語学習機会の  
拡充に努めていきます。

⑥学校の国際化対応能力の強化

外国人児童・生徒や保護者等との意思疎通が円滑に行われるよう、学校の国際  
化対応能力を強化していきます。

⑥都市施設等の国際化対応の推進

公共施設、交通機関、道路等の案内板に外国語又はローマ字ルビを併記するなど、外国人にとっても住みやすい都市環境の整備を推進していきます。

①国際理解教育の充実



学校教育において、家庭、地域に住む外国人、地域の大学・研究機関等との連携を深め、国際感覚や、国際社会の中で主体的に行動したり発信したりすることのできる能力 \_\_\_\_\_ を育む国際理解教育を充実していきます。

### ②国際感覚の涵養

市民が国際感覚を養い、世界への視野を広げ、国際社会の一員として異文化を理解し受け入れられるよう、様々な行事や事業への参加などを促進していきます。

### ③市民の外国語能力の向上

外国人とのコミュニケーションが円滑に行えるよう、BiVi つくばや地域交流センター \_\_\_\_\_ などを活用し、日本人と外国人とが交流する機会を創出して、市民の外国語能力の向上を図っていきます。

### ④国籍を超えた住民交流の推進

誰もが自由に参加できるイベントとして、\_\_\_\_\_ 国際色豊かな「国際交流フェア \_\_\_\_\_」を毎年開催しています。今後は、市内各所で開催されている国際交流イベントの主催者相互が情報を共有し、さらに多くの住民が参加できるよう工夫を重ね、つくば \_\_\_\_\_ の特性をいかした住民交流を推進していきます。

### ⑤海外との交流

つくば市には現在、米国に3つ、仏国に1つの姉妹都市、中国に1つの友好都市があり、韓国にも友好的交流を継続している都市が1つあります。

学校教育において、家庭、地域に住む外国人、地域の大学・研究機関等との連携を深め、\_\_\_\_\_ 国際社会の中で主体的に行動したり発信したりすることのできるよう、国際感覚や言語リテラシーを育む国際理解教育を充実していきます。

### ②国際感覚の涵養

市民が国際感覚を養い、世界への視野を広げ、国際社会の一員として異文化を理解し受け入れられるよう、様々な行事や事業への参加などを促進していきます。

### ③市民の外国語能力の向上

外国人とのコミュニケーションが円滑に行えるよう、つくばサイエンス・インフォメーションセンター \_\_\_\_\_ などを活用し、日本人と外国人とが交流する機会を創出して、市民の外国語能力の向上を図っていきます。

### ④国籍を超えた住民交流の推進

誰もが自由に参加できるイベントとして、毎年5月、国際色豊かな「つくばフェスティバル」を実施 \_\_\_\_\_ しています。今後は、\_\_\_\_\_ さらに多くの住民が参加できるよう工夫を重ね、「つくば」の特性をいかした住民交流を推進していきます。

### ⑤海外との交流

つくば市には現在、米国に3つ \_\_\_\_\_ の姉妹都市、中国に1つの友好都市があり \_\_\_\_\_ ます。

これまで以上に、市民相互の交流機会を増やし、異文化理解を促進するとともに、科学技術振興に資する都市間交流など、つくば市の特性をいかした事業の展開を図っていきます。

#### ⑥行政のグローバル化対応

グローバル化に向けた施策を実現していくため、職員自らが豊かな国際感覚とグローバルな視点を持って対応できるよう、充実した研修を行うとともに、組織体制の整備に努めていきます。

## 2 世界とつながり連携するまち

### (1)ネットワーク化の促進

#### ①市民団体等との連携の強化

市内には、筑波研究学園都市の草創期から活動している民間国際交流団体や、一般財団法人つくば市国際交流協会など多数の団体が活動しています。今後、これらの団体との連携をより一層強化し、市民の幅広い支援のもとグローバル化施策を推進していきます。

#### ②「オールつくば」のネットワークづくり

「国際都市つくば」として、だれにも快適な都市環境、すべての人にとって住みやすい生活環境を整備するには、茨城県などの関係機関や市内の大学・研究機関などとの連携・協働を活発に行うことが必要となります。

そのためには、「オールつくば」でのネットワークづくりを進めるとともに、このネットワークを通じて、グローバル化の推進に取り組んでいきます。

今後、これまでの交流実績を精査・評価するとともに、科学技術振興に資する都市間交流など、つくば市の特性をいかした事業の展開を図っていきます。

#### ⑦行政の国際化対応

国際化への取組を実現していくため、職員自らが豊かな国際感覚とグローバルな視点を持って対応できるよう、充実した研修を行うとともに、組織体制の整備に努めていきます。

#### ⑧市民団体等との連携の強化

市内には、筑波研究学園都市の草創期から活動している民間国際交流団体や、つくば市国際交流協会など多数の団体が活動しています。今後、これらの団体との連携をより一層強化し、市民の幅広い支援のもと国際化施策の展開を図っていきます。

#### ⑨「オールつくば」のネットワークづくり

「国際都市つくば」として、だれにも快適な都市環境、すべての人にとって住みやすい生活環境を整備するには、茨城県などの関係機関や市内の大学・研究機関などとの連携・協働を活発に行うことが必要となります。

そのためには、「オールつくば」でのネットワークづくりを進めるとともに、このネットワークを通じて、国際化の推進に取り組んでいきます。

### ③地域コミュニティの活性化

地域のコミュニティにおいてもグローバル化は必要で、外国人住民との接点を持ち、つながりを持つことが重要です。外国人が地域コミュニティに参加しやすい環境の整備や、外国人の参加意識の高揚を図っていきます。

### ④外国人住民等の能力活用

外国人住民、留学生、海外経験者等の多様な能力をいかすため、新たにキャリア登録制度の設置を検討していきます。その登録者がセミナーやイベントを開催するなど、多様な能力をいかし、相互にグローバルな知見を広げられるよう図っていきます。

## (2)未来を見すえた施策の推進

### ①次世代の社会的ニーズへの対応

次世代に向けた社会的ニーズとしては、高齢化社会に対応した医療や生活環境の向上、地球温暖化への対応として低炭素社会の実現などが求められています。

つくば市には、ロボットテクノロジーや実験低炭素タウン等の社会的実証実験フィールドとして優れた機能があり、これらを社会的ニーズへの対応に活用するため、国内のみならずグローバルに産官学の連携を強化していきます。

### ②国際的協力関係の推進

地球環境、資源・エネルギー等の国際的な課題に対して、国際社会の一員として国際的な協働が求められている中、市内の研究機関・大学等が先進的に取り組んでいる分野について、世界各都市の研究機関等との連携・協力を推進していき

### ⑥地域コミュニティの活性化

地域のコミュニティにおいても国際化と無縁ではいられず、外国人住民との接点を持ち、つながりを持つことが必要です。外国人が地域コミュニティに参加しやすい環境の整備や、外国人の参加意識の高揚を図っていきます。

### ⑦外国人住民等の能力活用

外国人住民、留学生、海外経験者等の多様な能力をいかすため、新たにキャリア登録制度の設置を検討していきます。その登録者がセミナーやイベントを開催するなど、多様な能力をいかし、相互に世界的視野を広げられるよう図っていきます。

### ⑧次世代の社会的ニーズへの対応

次世代に向けた社会的ニーズとしては、高齢化社会への対応として医療や生活環境の向上、地球温暖化への対応として低炭素社会の実現などが求められています。

つくば市には、ロボットテクノロジーや実験低炭素タウン等の社会的実証実験フィールドとして優れた機能があり、これらを社会的ニーズへの対応に活用するため、国内のみならずグローバルに産官学の連携を強化していきます。

### ⑨国際的協力関係の推進

地球環境、資源・エネルギー等の国際的な課題に対して、国際社会の一員として国際的な協働が求められている中、つくば市が先進的に取り組んでいる分野について、積極的に協働していき

ます。

### 3 グローバルな魅力を発揮し、人々が集うまち

#### (1) つくばならではの施策の展開

##### ① つくばの特性をいかしたまちづくり

筑波研究学園都市の機能強化を目指し、「環境フェスティバル」、「科学フェスティバル」や「教育日本一」など、つくばの付加価値を高めるブランディングを戦略的に進めるとともに、「産業フェア」などにおいて姉妹都市等からの企業の出展を促すなどして、人や企業の投資を呼び込み、国内外から人々が集うまちづくりを推進していきます。

##### ② 国際的教育プログラムの充実

つくば市に集う外国人研究者等の中には、家族で滞在する人も多数いることから、その子どもたちが外国語で教育を受けられる学校の支援や、国際バカロレア（IB）等教育環境の充実に向けて、関係機関と連携を図っていきます。

さらには、「教育日本一」とともに、充実したつくばの国際化教育を世界に発信していきます。

#### (2) 人を呼び込みつくばの発展につなげる

##### ① グローバルMICEの誘致推進

つくば地域における国際会議の誘致実績は、全国でもトップレベルにあります。G7茨城・つくば科学技術大臣会合開催にかかる支援やおもてなしの経験をいかし、さらなるグローバルMICEの誘致を推進することで、国内外からの人材や企業の投資を促進します。

ます。

##### ④ つくばの特性をいかしたまちづくり

筑波研究学園都市の機能強化を目指し、「環境フェスティバル」、「科学フェスティバル」や「教育日本一」など、つくばの付加価値を高めるブランディングを戦略的に進めるとともに、国際会議の開催など、

国内外から人々が集うまちづくりを推進していきます。

##### ④ インターナショナルスクール等の充実

つくば市に集う外国人研究者等の中には、家族で滞在する人も多数いることから、その子どもたちが外国語で教育を受けられる学校の設置や 教育環境の充実に向けて、関係機関と連携を図っていきます。

## ②インバウンド政策の推進

日本を訪れる外国人旅行者が2千万人を越えようとしている中、茨城空港における中国主要都市との直行便の就航等とも相まって、市内においても、外国人旅行者は確実に増加しています。

商業施設内における案内板の多言語化だけでなく、指差し案内板等を用いた外国語対応など、インバウンドを積極的に呼び込む施策を、さらに推進していきます。

## ③企業の海外進出支援

「国際科学技術都市つくば」のネームバリューをいかし、中国ハイテクフェアなど各国で開催されるビジネスフェアにおいて、市内のベンチャー企業等の出展を支援し、海外進出への足掛かりを創出していきます。